

# 平成24年 全国山火事予防運動



平成24年山火事予防ポスター原画・標語募集  
主催：(財)日本森林林業振興会  
協賛：文部科学省・消防庁・林野庁  
全国森林組合連合会

## 山火事予防運動実施中

主唱：林野庁・消防庁

ポスター原画  
募集府 私立京都府府立高等学校1年 吉本 知弘  
標語 山口県 県立防府商業高等学校3年 高森 啓

春先は、一年間の中で、最も山火事が心配される季節です。林野庁は、消防庁等が実施する「春季全国火災予防運動」の実施にあわせて、3月1日～7日を中心に「全国山火事予防運動」を実施します。



薩摩川内市消防局出初め式(薩摩川内市消防局提供)

山火事の約6割が冬から春(12月～4月)にかけて集中して発生しています。これは、森林内に落ち葉が積もって燃えやすい状態になっていることや季節風が強くなり、特に太平洋側は乾燥した状態になるといった自然条件が重なることに加え、春は、行楽や山菜採りのために山に入る人が増加すること、農作業中の枯れ草焼きなど

が山林に飛び火することが原因になっています。

山火事はいったん発生するとその消火は容易ではなく、大面積の森林を焼失する場合もあり、その回復には長い年月と多くの労力が必要で

す。昭和44年から実施されている「全国山火事予防運動」の平成24年のポスターには京都府私立京都芸術高等学校1年の吉本知弘さんの作品が、標語には山口県立防府商業高等学校3年の高森茜さんの作品がそれぞれ選ばれました。今年の統一標語は「忘れない 山への感謝と 火の始末」です。

### 具体の実施内容

- (1)ハイカー等の入山者、森林所有者、林内及び森林周辺の農地及び作業現場の作業者、地域住民、小中学校の児童・生徒等を対象に次の重点事項の啓発活動を実施します。  
ア 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと  
イ たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること

- (4) 消防機関等と森林所有者等が一層の連携を図るとともに、初期ウ 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと
- (3) 火災警報発令中など、火災の発生しやすい時期には、関係機関が協力して、住宅地等に近接する森林での重点的な森林パトロールを実施するなど森林の保全管理体制の強化を図ることにより、火災の未然防止、早期発見に努めます。
- (2) 駅、市町村の庁舎、学校、登山口等への警報旗、山火事予防ポスター等の掲示やテレビ、ラジオ、有線放送、新聞、インターネット等の各種広報媒体の活用等により、入山者、地域住民等に対し山火事予防意識の高揚を図ります。
- カ 火遊びはしないこと
- オ たばこは、指定された場所です喫煙し、吸いながらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと

■林野火災の発生状況(平成18年～平成22年)

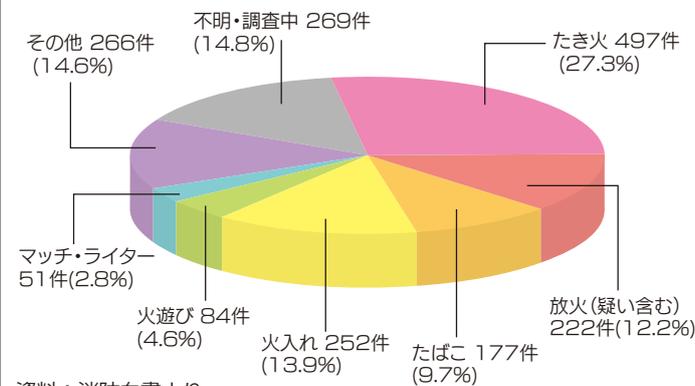
林野火災は過去5ヶ年平均で年間約2千件発生し、焼損面積は約8百ha、損害額は約3億1千万円となっている。

| 区分/年次    | H18   | H19   | H20   | H21   | H22   | 平均    |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 出火件数(件)  | 1,576 | 2,157 | 1,891 | 2,084 | 1,392 | 1,820 |
| 焼損面積(ha) | 829   | 717   | 839   | 1,064 | 755   | 841   |
| 損害額(百万円) | 134   | 237   | 606   | 521   | 71    | 314   |

資料：消防白書より

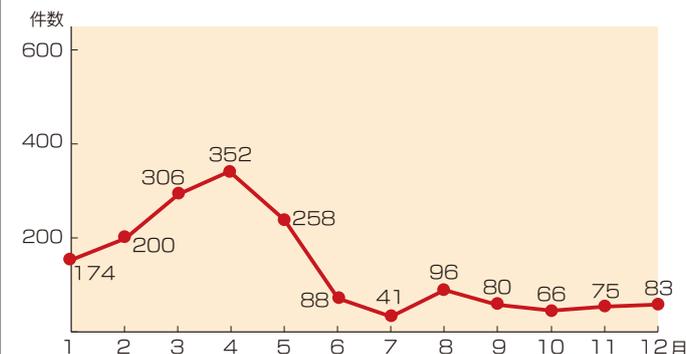
- (5) 地域住民、森林所有者等による山火事予防組織の育成強化を図るとともに、これらの組織が婦人(女性)防火クラブ等のいわゆる民間防火組織と連携を図り、予防活動を行うよう要請します。
- 消火を中心とする消防訓練、研修会、予防及び消火資機材等の適切な点検、管理等を実施し、地域の実情に即した予防対策を計画的に講ずるよう努めます。

■原因別出火件数(平成18年～平成22年の平均)



資料：消防白書より

■月別発生件数(平成18年～平成22年の平均)



資料：消防白書より



薩摩川内市消防局出初め式(薩摩川内市消防局提供)



山火事予防運動パトロール出発式(長野県提供)



山火事予防運動パトロール(長野県提供)